沖縄県では、平成25年10月に文化芸術振興条例を制定し、様々な文化芸術振興施策を展開することとしています。平成26年度からは、講座や派遣研修の実施を通じて、アーツマネジメントに関する人材育成の取組を本格化させます。文化芸術が持続的に発展していくために ― 劇場・音楽堂等の文化施設や、芸術団体の役割はどのようなものでしょうか。豊かな文化芸術づくりに欠くことの出来ない人材の必要性についての認識を深め、その育成を考えます。そして沖縄県の取組に期待することなどについて議論し、沖縄の文化芸術の将来を展望します。

〈第1部〉
13:00〜15:30

基調講演
生活文化と芸術文化
〜次世代公共ホールの役割から考える〜

祭りや民俗芸能などの生活文化を通した地域社会の再生と構築。芸術文化の価値の創造を通した魅力の発信。この2つの方向から、沖縄の多様な地域社会における劇場や芸術団体の役割と、これからの文化芸術の発展の方向性を考えます。

佐藤 信（さとう まこと）　**座・高円寺 芸術監督**

劇作家、演出家。昭和41年に劇団「自由劇場」を設立。昭和43年に「演劇センター68」（現在、劇団黒テント）の結成に加わり、以後20年間大型テントでの全国移動公演を継続。80年代より東南アジアを中心に海外の現代演劇との交流を深める。演劇の他、オペラ、舞踊、糸操り人形芝居、ショーやレビューと、様々な分野の舞台作りに参加している。現在は、個人劇団「鴎座」を主宰。平成9年〜14年は世田谷パブリックシアターの劇場監督を務め、平成21年に座・高円寺の芸術監督に就任。

討　論
沖縄の文化芸術をさらに豊かにしていく方向性と担い手について考える

崎山 敦彦（さきやま あつひこ）
神奈川芸術劇場 チーフプロデューサー

沖縄県出身。平成4年、劇場アートスフィア（現：銀河劇場）の開設準備に参加し、プロデューサーに就任。『野村萬斎・電光掲示狂言会』『モスクワ　マールイ劇場招聘公演』等多くの作品を手掛ける。平成18年あうるすぽっとチーフプロデューサーとして開設準備に参加。平成23年からは、KAAT神奈川芸術劇場チーフプロデューサーとして事業を統括する。

仲村 逸夫（なかむら いつお）　**沖縄伝統組踊子の会　会長**

野村流古典音楽保存会 比嘉康春に師事。沖縄県立芸術大学大学院、国立劇場おきなわ組踊養成研修で琉球古典音楽や組踊地謡を学ぶ。現在、沖縄芝居実験劇場の事務局、沖縄県立芸術大学の非常勤講師を務める他、国立劇場おきなわ主催公演や各琉球舞踊流会派のリサイタル等、年間約50公演に出演。国立劇場おきなわ研修修了生からなる「沖縄伝統組踊子の会」会長。県内の学校や県外の修学旅行生を対象に学校鑑賞会やワークショップを実施し、組踊の普及活動を行っている。

下山 久（しもやま ひさし）
一般社団法人沖縄県芸能関連協議会 事務局長

沖縄を題材にした作品や国際共同作品など多数企画制作。平成17年から、総合プロデュー サー、芸術監督としてアジア諸国・地域のファミリー向け演劇フェスティバル「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」を毎年開催。ATYA/アジア児童青少年演劇フェスティバルネットワーク会議 議長を務めるなど幅広い国際的なフェスティバルのネットワークを築いている。エーシーオー沖縄（芸術文化協同機構）代表。

中村 晋子（なかむらしんこ）
読谷村文化センター鳳ホール　企画運営嘱託員

沖縄をテーマにした芝居、映画の制作現場を経て、平成15年より公立ホールの事業企画運営に携わる。現在は、読谷村文化センター鳳ホールを主体に、演劇やミュージカル、民俗芸能など村民参加型の事業を多く展開している。

進行

大和 滋（やまとしげる）
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 参与

芸団協主催公演の制作担当、芸能に関する基本的な諸問題、文化政策の調査研究、芸術文化振興基金、文化芸術振興基本法・劇場法などの提言活動に携わる。現在、（一社）私的録音補償金管理協会事務局長を兼任。（公財）神奈川芸術文化財団理事、（公財）新宿未来創造財団評議員。主な共著書に『アートマネジメントと文化政策』（1998/NIRA）、『現代のまちづくり』（2000/丸善ライブラリー）。

〈第2部〉
16:00〜17:30

報　告
沖縄県のアーツマネジメント人材育成計画（案）についての報告

討　論
劇場、芸術団体の役割とその運営を支える人材育成について考える

沖縄県のアーツマネジメント人材育成計画（案）に対する期待や、行政・大学・文化施設・芸術団体それぞれの人材育成における役割等を議論し、今後の展望について意見交換します。

久万田 晋（くまだ すすむ）
沖縄県立芸術大学付属研究所教授

高知市生まれ。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。専門は日本・沖縄を対象とした民族音楽学、民俗芸能論、ポピュラー音楽論。主な著書は『沖縄の民俗芸能論　神祭り、臼太鼓からエイサーまで』（2011/ボーダーインク）、『エイサー360度　歴史と現在』（共著、1998/那覇出版社）など。

平田 大一（ひらた だいいち）
公益財団法人沖縄県文化振興会 理事長

沖縄県小浜島生まれ。大学生の頃から詩の朗読会を開催。詩、笛、太鼓、三線、舞で1400校を超える学校公演を実施。平成12年より地域の伝承や偉人に光をあてた舞台「現代版組踊シリーズ」を県内外で展開。平成13年「きむたかホール」初代館長、平成17年「那覇市芸術監督」を歴任。平成23年沖縄県に新設された「文化観光スポーツ部」の初代部長に抜擢。平成25年より（公財）沖縄県文化振興会理事長として文化に軸足を置いた、新たな地域活性化のモデルづくりを続ける。著書多数。

中村 透（なかむら とおる）
南城市シュガーホール 芸術監督

国立音楽大学大学院作曲専攻修了。昭和50年より琉球大学で教鞭をとり、平成20年から4年間 琉球大学教育学部長を務める。平成6年のシュガーホール開館にあたり、前年より運営・事業理念の計画を含む設立準備に携わる。財団法人地域創造・ステージラボ静岡セッションコーディネーター。沖縄文化活性化・創造発信支援事業アドバイザリーボードメンバー。著書に『愛される音楽ホールのつくりかた：沖縄シュガーホールとコミュニティ』（2012/水曜社）など。

進行

杉浦 幹男（すぎうら みきお）
公益財団法人沖縄県文化振興会プログラムディレクター

東京藝術大学美術学部卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科修了。三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員、NPO法人映像産業振興機構（VIPO）大阪事務所長・京都事務所長、（財）沖縄県産業振興公社ハンズオンマネージャー等を経て、現職。芸術文化団体の企画制作、運営を支援や文化の産業化の取り組みに従事している。静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター特任准教授。デジタルハリウッド大学大学院客員教授。共著書に『価値を創る都市へ―文化戦略と創造都市』（2008/NTT出版）など。